

ふるさとわがまちづくり

県営保見自治区

◆「県営保見」の由来

名鉄豊田線の浄水駅から北へ4キロメートル、山に囲まれた中に高層住宅がそびえる大きな町が広がります。県下でも有数の約4000戸のマンモス住宅“保見団地”です。



保見団地全景

「保見団地」は、東保見町、保見町の共有地でした。ここを売ろうという話が出たのは昭和38年頃ですが、工場か住宅かと随分話し合いました。一時はトヨタ自動車の住宅やゴルフ場という話もありましたが、最終的には住宅ということになり、住宅公団、県、名鉄に売ることになりました。売買契約は昭和44年まで4年間かかったと当時の方



から聞いています。

こうして、昭和47年から造成が始まり、3年後に入居できるようになり現在では4つの自治区ができました。

◆どんど焼き

県営保見自治区では毎年1月の第2日曜日に県営保見自治区伝統行事「どんど焼き」を行なっています。

「どんど焼き」とは小正月(こしょうがつ=1月15日)の行事で、正月のしめなわ・松飾り・破魔矢・書



どんど焼き



初めなどを家々から持ち寄り、一箇所に積み上げて燃やすという、日本全国に伝わるお正月の火祭り行事です。どんど焼きの火にあたったり、焼いた団子を食べれば、その1年間健康でいられるなどの言い伝えもあります。これから1年の無病息災を願い、良い年を迎えられるよう祈願するものです。

自治区では団子は焼きませんが、豚汁やおしるこなどを区民の皆さんにふるまっています。

県営保見自治区データ

(H21.4現在)

設立：昭和54年

世帯数：952世帯

677世帯(昭和54年)

組数：140組

面積：0.150K㎡

自治区たより：県営保見自治区だより

回覧：月2回

防犯灯設置箇所：86箇所

小学校：東保見小学校区

西保見小学校区

自治区会館：県営保見集会所